

# みんなでも乗ろう、まちのバス



今年1月からまちを走っている町営バス。皆さんは乗ったことがありますか？

町営バスは、皆さんのニーズ（必要性）やご意見をもとに運行できる、地域に根ざした皆さんのためのバスです。

みんなで支えるみんなのバス。2000円でできる小さな旅に出かけてみませんか？

運行開始から8か月  
延べ2万6700人が利用

まちの皆さんの重要な交通手段として、今年1月4日から町営バスの運行を始めました。以来8か月が過ぎましたが、この間の延べ輸送人数は2万6758人（8月末現在）に達し、人口約4200人のまちにとつて、大きな輸送量になってきています。

また、通常の路線運行とは別に、運行に支障がない場合には、学校行事やイベントなどの臨時運行バスとして、利用の拡大を図っています。

これまでの路線バスでは  
運行補助金が増大

これまで、町内では日ノ丸自動車（株）による路線代替バスを運行し、まちはバス営業の赤字分を補助するかたちで運

行を続けてきました。

しかし、運行経費の増加に加え、乗車人数の減少によって運賃収入も減少、平成16年度には運行補助金が約1600万円、17年度には1800万円を超え、このままでは町民の生活交通の維持も難しい状況になりました。

さらに、小学校統合による菅福地区児童の安全で効率的な通学手段の確保も、新たな課題としてその解決が急がれていました。

新しいバス運行について  
より良い方法を検討

路線バスは、地域住民、特に高齢者や児童生徒など、いわゆる交通弱者にとつて必要不可欠な公共交通機関であることから、まちでは緊急課題として対応策を検討。平成17年限りで米子・根雨線を除く4路線の代替バス運行を終了

し、今年1月から町営バスを運行しています。

自治体が運行主体となつて乗合バス事業を行う場合は、道路運送法による、いわゆる「21条バス」と「80条バス」の二通りがあります。

道路運送法第21条の規定は、自治体がバスを貸し切り、業者に運行を委託して路線を維持する方法で、今までまちが行っていたものです。

一方、第80条には「家用自動車は、有償で運送の用に供してはならない。ただし、災害のため緊急を要するとき又は公共の福祉を確保するためやむを得ない場合であつて国土交通大臣の許可を受けたときはこの限りでない」と規定されており、これにより公共の福祉の一環として自治体自らが運行することができるものです。

この方法によると、利用者のニーズや住民の要望などを取り入れた運行形態をつくることができ、地域に合った独自のバス路線として工夫していくことが可能になります。

反面、不必要なルートやダイヤ設定などの過剰サービス、コスト意識の低下を招くおそ

れもあります。

まちでは、さまざまな角度から検討して、自主運行を行う80条バスを選択し、運行管理を民間業者に委託してコスト削減を図ることにしました。

まちの現状に沿った

町営バスを運行

町営バスの運行路線は菅福線、奥渡線、板井原・真住線の3路線とし、総延長は104.2キロに及びます。これまでの路線バスと違い、可能な限り集落内に乗り入れたり、停留所を延長するなど、利用区域と利便性を順次拡大しています。

ダイヤは、主に小中学生の通学に合わせた時間編成で組んでおり、輸送量の多い日野地区には登下校専用のスクール便も編成しています。また、従来から空車の目立つ土日祝日については、日野病院が診療する第2・第4土曜日以外は運休して効率化を図っています。

運賃は均一料金制で、小学生100円、中学生以上200円に設定し、町内どこに

行つても料金は同じと好評を得ています。

また、バスの車両は57人乗り中型バス1台、29人乗り小型バス2台の計3台で、購入費約3000万円は全額宝くじ助成金を充てています。車体には、町内の小学生の応募の中から決定したデザインを採用、「オシドリ」「カワコ」「ツツジ」など、まちのシンボルを楽しく表現しました。

皆さんのバス運賃が直接まちの収入に

また、バスを維持していくためには多くの経費をまちが負担していく必要があります。平成18年度当初予算では、町営バスの運行経費約1460万円を計上し、このうち利用者の運賃収入約380万円を見込んでいます。この運賃が直接まちの収入となります。したがって、運賃収入が多ければ多いほどバス運行に必要な経費が少なくて済むことになります。

まちの皆さんが町営バスをできるだけ利用していただくことが、町営バスを存続・発展させていくことにつながり

ます。皆さんのご利用をお願いします。

様々な課題を乗り越え  
利用者の期待に応える

過疎地域、中でも山間地域では、利用者の減少により運行便数を減らすなど利便性が低下し、それがさらに利用者数の減少を加速させるという悪循環が起こっています。

これまでもさまざまな方策がとられてきましたが、通勤、通学、通院、買い物と利用目的の違うニーズの一元化を図り、効率化を進めて地域の生活交通を維持していか

ければなりません。ほかに、JR伯備線との輸送の連携、交通の不便な地域の解消方策、医療・福祉施設との連携、観光などを視野に入れた近隣町村との広域連携など、町営バスにはまだまだ多くの課題があります。

運行を開始して8か月あまり、「まちのバス、みんなのバス」が走り出し、活気が出てきたように感じます。皆さんの声、利用者の期待に少しでも応えていくために、試行錯誤しながら見直しを重ね、その願いに近づく町営バスでありたいと思います。

バス待ちをしていた小学生たちに話を聞いてみました！

バスのデザインについてどう思う？

面白くてかわいいと思う。

自分たち以外に町営バスにはどんな人が乗っていますか？

病院へ行くお年寄りが乗っている事が多いです。

バスはこれからどうなってほしい？

放課後バス待ちの時間が長いので、もっと本数が増えればいいな...

そのほかなんでもどうぞ！

小原まで路線が伸びたので便利になった！若い人が乗っていることは少ないなあ  
休みの日でも時々乗ってます 運転手さんに、乗るときは「お願いします」、降りる時は「ありがとうございます」ってあいさつしています。